

6月25日（日）

活動初日、第11グループからの引継ぎを受け、避難所へ2人、山田町建設課へ行政支援に出かけた。

避難所のローテーションは24時間勤務体制をとっており、昼間だけの対応は北海道のみであった。地震発生から一定の時間が過ぎており、避難所への来客もあまり多くはなかったが、被災した住民の皆さんの笑顔が見られるように、少しでも役に立つことがあれば努力したい。

山田町の建設課では、被災者慰霊祭が開かれたこともあって、その対応で午前中に多くの山田町職員が外勤し、残された4人は他県との派遣者とほとんど留守番状態であった。

仮設住宅のさまざまな手続きの対応が主な業務だが、駐車場の番号札建てやゴミステーションのゴミカレンダーの掲示など、新たな生活を送るにあたって本当に大切な対応と思う。

特に山田町は津波と火災で町のほとんどが流・焼失している。役場の周りの瓦礫はかたづけられたものの、何もない状態で、復興までまだまだ時間が必要と感じた。それでも役場周辺はそれなりに活動が進められているが、一步、街の中心地を外れると、瓦礫の除去がまだこれからという地区もあって、思わず目を覆ってしまった。



明日は新たに健康福祉課の行政支援業務もはじまるので今日以上に気を引き締めて、活動していきたいと思う。

最後に集合写真を本日の朝の出発のときに撮ったはずだったが、カメラを触った方がTさんであったため、画像がどこかに行ってしまいました。この次にはグループの元気な姿をお見せします。



仮設住宅の入居書類を整理中の道本部・櫛部さん、全道庁・鈴木さん



仮設住宅のゴミステーション収集日・分別の看板を取り付ける  
全道庁・竹鼻さん、津別町職・青柳さん